

## 議事1号 神戸電鉄粟生線活性化の取組等に対する支援に関する 国への要望について

神戸電鉄粟生線の活性化の取組等に対する支援を求めるため、平成30年度に引き続き、次のとおり国への要望活動を実施する。

### 1 要望の主旨

国と地方が一体となり中長期的な視点に立って「地方創生」に取り組んでいる中、交通ネットワークの強化により地域間のつながりを確保し、相互連携や交流を図ることがますます重要となっている。

このため、沿線住民等の需要に配慮した交通手段を効果的・効率的に整備するため、国においては、交通政策基本法に定める国の責務として、次に掲げる内容について積極的な取組及び支援を要望する。

#### (1) 粟生線の防災機能強化に対する支援

粟生線は、大規模災害が発生した場合における多数の者の移動手段及び物資の円滑な輸送手段として必要不可欠な路線であることに鑑み、多発する自然災害への防災対策や災害復旧に対する支援制度の堅持・拡充により、将来にわたる粟生線の存続を支援すること。

#### (2) 沿線自治体及び地域の取組に対する支援

地域公共交通調査事業（計画推進事業）について、補助対象範囲の拡充（利用促進を目的とした社会実験の実施に要する経費等）及び期間の延長（現行2年を5年に）を図ること。

#### (3) 安全運行に必要な予算の確保

鉄道安全輸送設備等の整備に対する支援制度を堅持・拡充すること。

また、沿線自治体が一体となって行う支援と協調し、国においても、安全運行に必要な予算を確実に確保すること。

### 2 要望者

神戸電鉄粟生線活性化協議会 会長 仲田 一彦  
(兵庫県、神戸市、三木市、小野市及び神戸電鉄株式会社)

### 3 要望先（予定）

国土交通省総合政策局、鉄道局 ほか

### 4 要望時期（予定）

令和元年9月17日（火）

神戸電鉄粟生線活性化の取組等  
に対する支援に関する要望書  
  
(案)

令和元年9月

神戸電鉄粟生線活性化協議会

## (防災機能を担う神戸電鉄粟生線について)

神戸電鉄粟生線（以下「粟生線」という。）は、神戸市北区の鈴蘭台駅から小野市の粟生駅までを結ぶ全長 29.2km の鉄道路線で、沿線の神戸市、三木市、小野市及びその周辺市町の地域住民の通勤、通学をはじめ、自家用車を持たない高齢者等にも利用されるなど、沿線地域の生活を支える重要な路線です。

また、粟生線は、北播磨地域の基幹駅である粟生駅でJR加古川線や北条鉄道と接続し、JR山陽本線、東海道本線、福知山線その他の民間鉄道路線と相互補完の役割を果たす広域的な鉄道ネットワークの一部として機能しています。

更に、粟生線は、かつて甚大な被害をもたらした阪神・淡路大震災のような災害や不測の事故等の発生時において、他路線の代替機能の役割を担うなど、防災対策の観点からも非常に重要な路線です。

このため、広域的なネットワークを担う粟生線を維持し、地域の安全・安心を守り抜くことは、鉄道事業者のみならず沿線地域の重要な責務であると考えています。

しかしながら、近年の少子高齢化やモータリゼーションの進行により粟生線の利用者数は年々減少し、平成30年度は794万人と、ピークであった平成4年度の1,846万人に比べ1,052万人の減(△57.0%)となっています。加えて、近年、多発する台風や豪雨などの自然災害の影響により、運休や災害復旧が発生するなど、非常に厳しい経営状況が続いている。

## (沿線自治体及び地域における利用促進の取組について)

神戸電鉄粟生線活性化協議会（以下「協議会」という。）は、平成22年4月から平成29年3月までの7年間、「神戸電鉄粟生線地域公共交通総合連携計画」に基づく取組を実施し、平成29年4月には「神戸電鉄粟生線地域公共交通網形成計画」（以下「形成計画」という。）を策定し、「鉄道とバスの連携強化」や「交通結節点の強化」など、公共交通の利用促進に着実に取り組んでいます。

また、地域住民で組織する粟生線サポーターズくらぶ等を通じた「沿線地域が主体となった利用促進・乗車運動の展開」や中長期的な視点も含めた「駅を中心としたまちづくりの推進」についても重点的に取り組んでいます。

#### (鉄道安全輸送設備等の更新及び修繕について)

鉄道安全輸送設備等の更新及び修繕については、兵庫県、神戸市、三木市及び小野市等が一体となって支援しています。

新型車両の導入については国の支援を受け、本年度に完了する見込みですが、老朽化車両の改良や法令改正等に合わせた無線、変電設備等については、引き続き、計画的に設備投資を行う必要があります。

しかしながら、粟生線の収支は赤字状況にあるとともに、地方自治体の財政についても厳しい状況が続いており、安全運行に資する設備投資を十分に行えない懸念があります。

粟生線については、現在においても1日に約2万2千人が利用しており、万が一にも粟生線が廃線となれば、自動車やバスだけでは輸送困難となり、日常の移動手段が奪われ、生活基盤にも大きな影響が生じます。

こうしたことから、粟生線の維持・存続を図るために、現在の利用促進活動や支援を継続することが不可欠な状況です。

つきましては、下記の事項に格別の御高配を賜りますようお願いいたします。

## 記

国と地方が一体となり中長期的な視点に立って「地方創生」に取り組んでいる中、交通ネットワークの強化により地域間のつながりを確保し、相互連携や交流を図ることがますます重要となっています。

このため、沿線住民等の需要に配慮した交通手段を効果的・効率的に整備するため、国においては、交通政策基本法に定める国の責務として、次に掲げる内容について積極的な取組及び支援をお願いします。

### 1 栗生線の防災機能強化に対する支援

栗生線は、大規模災害が発生した場合における多数の者の移動手段及び物資の円滑な輸送手段として必要不可欠な路線である。

このため、多発する自然災害への防災対策や災害復旧に対する支援制度を堅持・拡充することにより、将来にわたる栗生線の存続を支援すること。

### 2 沿線自治体及び地域の取組に対する支援

地域公共交通調査事業（計画推進事業）について、補助対象範囲の拡充（利用促進を目的とした社会実験の実施に要する経費等）及び期間の延長（現行2年を5年に）を図ること。

### 3 安全運行に必要な予算の確保

鉄道安全輸送設備等の整備に対する支援制度を堅持・拡充すること。

また、沿線自治体が一体となって行う支援と協調し、国においても、安全運行に必要な予算を確実に確保すること。

以上

令和元年9月17日

神戸電鉄粟生線活性化協議会 会長 仲田 一彦

兵庫県  
神戸市  
三木市  
小野市  
神戸電鉄株式会社

# 神戸電鉄路線図

